くらがの

発行所　倉賀野神社
〒370-1201
群馬県高崎市倉賀野町 1263 番地
電　話　027-346-2158
ＦＡＸ　027-346-2184
例祭（秋季大祭）　10 月 19 日
春季大祭　　4 月 19 日
公式ホームページ　www.chinju.info/

御代替り　平成から令和へ

春の大祭を迎え、氏子崇敬者の皆様には愈々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

さてこのたびの春季大祭は、平成から令和への御代替りを間近に迎えるお祭りとなりました。顧みれば国民の側に常に心を寄せられてきた天皇皇后両陛下の御慈愛はまことに深く、ありがたく感謝の念に堪えません。

平成二十八年夏の天皇陛下の「おことば」からおよそ三年が経ち、来る四月三十日を以て陛下は譲位（退位）なされ、五月一日に皇太子殿下が即位なさることとなります。わが国の古来の伝統に則って皇位の継承がおこなわれますことを心からお慶び申しあげます。

即位礼、大嘗祭などの一連の儀式は総称して御大典、また御大礼ともいわれます。倉賀野神社では「令和の御大典」を奉祝して、五月二十五、二十六両日に、伝来の「天明神輿」の神幸祭を六年ぶりに斎行することとなりました。また御大典記念事業として御本殿屋根替えの計画を進めているところです。

皇位継承の諸儀式がつつがなく行われますとともに、新しい御代が平和で豊かであります様よう、そして地域の皆さまが厚く御神恩をいただきますよう大神様の前にご祈念申し上げる次第であります。

宮司　髙木直明　謹言

新元号は『万葉集』の巻五、大宰府の「梅花宴」三十二首の序文を典拠にしているという。当地も天神社の梅が境内に香り渡った。

御大典記念　天明神輿神幸祭

◇御代替りをお祝いいたしましょう◇

令和の御大典を奉祝する臨時大祭に皆さまの御参加・御奉賛をたまわりますようご案内申し上げます。

5月２５日（土）

◎午後７時　神輿に「神霊奉遷の儀」（境内）

浄闇の中、神さまをお神輿にお遷しする儀式です。

5月２６日（日）

◎車上渡御
- 8：00　発輿　→　上正六御旅所
  →　桜木御旅所　→　倉賀野東御旅所
- 10：00　還御

◎行列渡御
- 11：00　発輿

神輿は雅楽の音に導かれてしずしずと進む。

- 11：40　仲町御旅所（倉賀野公民館）
- 12：50　下町御旅所（諏訪神社）
- 14：40　南町御旅所（人権プラザ）
- 15：40　田屋町御旅所（八幡神社）
- 16：50　還御

■トピックス■

◎北向道祖神大祭・どんど焼き（一月十五日）小正月の朝。無病息災を祈る祝詞を奏上し、続いて古神札に感謝してお焚き上げする「どんど焼き」が行われた。

◎冠稲荷初午大祭（二月十一日）境内の冠稲荷さまのお祭り。祝日・建国記念の日のお祝いを兼ねて、「福投げ」や、創作紙芝居「飯玉縁起」の上演などがおこなわれた。

紙芝居『飯玉縁起』の上演に集まる子供たち。

◎勧学祭・ランドセルお祓い式（三月十七日）新入学児童らが参拝。一人ひとりが順番に玉串をお供えして拝礼し、通学の安全と学業成就、楽しい学校生活を祈願した。

◎春・秋の大祭に舞を奉納　春は四月十九日、秋は十月十九日。地元神楽保存会の太々神楽や、小中学生の巫女舞を奉奏する。

太々神楽　鞨鼓の舞。ただ今、神楽保存会の会員を募集しています。

中学一年生の浦安舞（平成30年春季大祭で）。

◎中学生神輿　秋の大祭の恒例行事。元気よく出発した後、御旅所祭では、生徒の浦安舞や、雅楽の奉納演奏がおこなわれる。

東京・雅楽道友会と高崎・楽柊会の奉納演奏（御旅所祭）。

◎境内神饌田　六月下旬に御田植祭、十月中旬には抜穂祭（稲刈りの儀）がおこなわれる。総代会と倉賀野中の生徒有志が奉仕する。

編集後記▽大宰府の大伴旅人邸で「初春の令月にして、気叡く風和ぎ」と開かれた梅花宴では、どのような歌が詠まれたのだろう▽梅の花三十二首の内の一つに、〈わが苑に　梅の花散る。ひさかたの　天より雪の　流れ来るかも。〉わたしの園に梅の花が散る。はるかな大空から雪が流れてくるのか。美しい情景を詠みあげたのは歌会の主、旅人といわれる▽とりわけ編集子の胸に沁みるのは、〈毎年に　春の来らば、かくしこそ　梅をかざして　楽しく飲まめ。〉いにしえびとが、梅を手折って頭挿にし、祝いの酒を楽しく飲もうと誘ってくる。これは…断れない。（直）

「倉賀野神社奉賛会」に加入しましょう。
お問合せ・お申込み
社務所０２７（３４６）２１５８

◎二百年前の光格天皇譲位と倉賀野

天皇陛下の譲位（退位）による皇位継承は、文化十四（一八一七）年に光格天皇が仁孝天皇に譲位されて以来、およそ二百年ぶりのことという。写真は「倉賀野宿七ヶ郷鎮守飯玉大神」と胴に刻まれた江戸時代の太鼓。文化五年に「仲町中、上町旅籠屋中」が神社に奉納したもので、光格天皇の御代を振り返る便となる。

また同じ宿内の諏訪大明神の神主髙木信濃の日記には、改元により「文政元年と号、同日二分金通用の儀仰せ出だされ候」とあり、世の中の経済にも移り変わりがあったようだ。

御大典記念
御本殿屋根替え事業

神社・総代会では来る令和の御大典を奉祝して、「御本殿屋根替え」の事業を進めています。皆さまの御奉賛を心よりお願い申し上げます。

・屋根銅板　一口　二千円

社務所にて随時御受付しています。

＊　＊　＊

御本殿は元治二（一八六五）年に建替えられたものです。『御普請仕様書』などの造営文書類が多数残っていることから、建築物と文書の価値が一体のものとして高く評価され、高崎市の重要文化財に指定されています。文化財保護審議委員の指導をいただきながら事業計画を進めているところです。

＊

現在の銅葺き屋根は昭和十二年に工事されたものですが、記録から興味深い事実が判明しました。

書庫に保管する『昭和十一年十一月ヨリ神社修繕ニ関スル書類綴』の中から、『出荷明細書』が出てきたのです。発行元は大阪市此花区の「山中精煉所金属瓦部」で、昭和十二（一九三七）年十二月三日出荷、とあります。陸檜皮（銅平板の意か）や箕甲（曲線部分用の銅板）等、金属屋根材十三品目が当地に向けて出荷された記録です。

その出荷元は、いまは社名が変わり、大阪市中央区に本社を置く非鉄金属材料の総合商社、山中産業（株）であることがわかりました。以下は同社の社史担当部署の話を要約したものです。

＊　＊　＊

昭和十二年に施工された屋根が群馬県に現存すると聞き、たいへん驚いている。当社は銅地金商として幕末の安政年間に創業。大正十二年の関東大震災の復興需要を受けて、同十五年に「山中式特許金属瓦」を開発、製造を開始した。東京文京区の湯島聖堂、台東区の上野東照宮、中央区湊の鉄砲洲神社などは大震災で損壊し、いずれも当社の屋根材を使って再建された。また昭和六年再建の大阪城天守閣の屋根にも使われ、平成の大改修（平成七～八年）では五万五千枚の金属瓦が確認された。

やがて戦時となり、屋根に銅を使用するのは贅沢との風潮が次第に高まり、「銅使用届」が義務付けられ、許可制となった。戦前に当社の屋根材が施工されたのは、昭和十五年のパラオ・コロール島「南洋神社」が最後である。また戦災で工場が焼けてしまったため、製品の金型や当時の出荷記録などは現存しない。

＊　＊　＊

右の話をもとに前掲の『神社修繕ニ関スル書類綴』を見ると、なるほど、その中に昭和十二年十一月八日付「銅使用届」の控えが綴られていました。そこには「銅を使用セントスル理由」として、「在来屋根ハ明治三十三年ニ葺替ヘヲ実施セシ柿板葺ニシテ姑息ナル修繕ハ不可能ナル現状ニアリ、此際柿板葺キヨリ工費低廉且ツ体裁優美ナル特許山中式檜皮形銅板ヲ使用セルモノナリ」とあります。ここにも「特許山中式」と書かれていて興味深く、今後の調査が期待されます。

なお、そこから更に三十七年前の明治三十三年に御本殿屋根替えが行われています。このとき、事業立ち上げの『寄進芳名簿』の序文には銅板葺とする計画が書かれていたのですが、実際には柿板葺の工事だったことが、この「銅使用届」の記載内容から推察されます。

＊　＊　＊

ふと気付くのは、ここに見た屋根替え記録と、この五月に神幸祭をおこなう「天明神輿」との不思議な共通点です。神輿は天明四（一七八四）年の製作で「大阪北御堂前宮屋九郎兵衛」と墨書があり、やはり大阪で作られたものでした。またその神輿を神社に奉納したのは倉賀野宿脇本陣の須賀七代庄兵衛の妻、お圓さん。いっぽう昭和十二年の屋根替え事業を指揮したのは当時の神社総代会長で、同じ須賀家十五代の保三氏でありました。

本殿彫刻「夫婦鶴亀」

元治二（一八六五）年の御本殿「上棟御祝儀彫師連名」には、高崎金十郎（こと）事新井主膳、勘蔵、喜代松などの彫師の名が見える。

夫婦鶴

波に亀（夫婦亀）

慶応元年の御朱印帳

御朱印を求めて各地の神社を参拝する人びとが増えている。ここに、今からおよそ百五十年前、慶応元年（一八六五）の御朱印帳がある。飯玉宮（現在の倉賀野神社）の神主、高木出雲が武蔵国の十三社寺を、この年の十一月一日から十七日にかけて巡ったものである。以下、日付順に追ってみよう。なお、「　」内に御朱印帳に書かれた内容を記した。

＊　＊　＊

①十一月一日　三峰神社・埼玉県秩父市「勅願所　武陽　三峰大権現　高雲寺　役人」

←

②十一月（日付なし）　太陽寺・秩父市「東高野　大日向山　髪僧大師　太陽禅寺　役人」

←

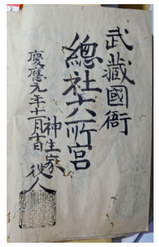
③十一月五日　子ノ権現天龍寺・飯能市「大日本一社　武陽　秩父　子大権現　広前　大鱗山　知事」

←

④十一月九日　北野天神社・所沢市「東国惣鎮守北野御宮　武蔵小手指原之神　武州支配頭　役所」

←

⑤十一月十日　大國魂神社・東京都府中市「武蔵国衙　総社六所宮　神主家　役人」



←

⑥十一月十三日　洲崎大神・横浜市神奈川区「洲崎大明神　祭神天太玉命、比理乃姫命　神主　吉田出羽正」

←

⑦十一月十四日　神田神社・千代田区外神田「御府内総鎮守　神田御社　当番」

←

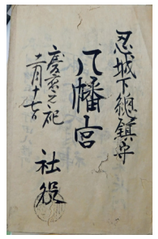
⑧十一月十五日　大宮氷川神社・さいたま市「武蔵国一宮　東国総鎮守　延喜式曰　名神大月次新嘗　案上官幣之御社　氷川神社　素戔嗚尊　勅願所　御祈願所　大祝　岩井伊予守　役人」

←

⑨十一月十五日　氷川鍬神社・埼玉県上尾市「同国足立郡上尾駅　御鍬太神宮　神主　宮本日向正」

←

⑩十一月十七日　行田八幡宮・埼玉県行田市「忍城下総鎮守　八幡宮　社役」

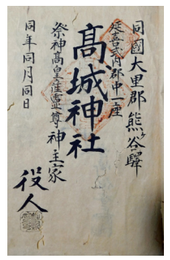


←

⑪十一月十七日　忍諏訪神社・行田市「武州埼玉郡行田八幡町　忍城鎮守　諏訪大明神　神主　高木長門」

←

⑫十一月十七日　高城神社・熊谷市「同国大里郡熊ヶ谷駅　延喜式内郡中一座　高城神社　祭神高皇産霊尊　神主家　役人」



←

⑬十一月十七日　寅稲荷神社・深谷市「同国榛澤郡牧西村　寅稲荷　天満宮　両社　神主　宮﨑伯耆正」

＊　＊　＊

秩父の山々に登り、さらに江戸御府内にまで足を延ばした参拝の旅は、クルマを利用する現代からは想像もつかない。慶応元年のこの時期は、再建中だった飯玉宮御本殿の上棟式の後、遷宮式の前に当たる。多忙だったはずだが、神主の出雲は大願成就を期して御朱印の旅を思い立ったのであろうか。いつか出かけてみたいものである。

小春日桜（こはるひざくら）　敬宮愛子（としのみや）内親王様の御誕生を奉祝して、平成13年の12月、境内に記念植樹したもの。晩秋から春にかけて花開く。写真は昨年11月。